資料５

事業所視察報告書

１　日時

令和８年９月１５日　１３時３０分～

２　訪問先

特定非営利活動法人ミュー　地域活動支援センターライフサポートＭＥＷ
武蔵野市中町３－４－９　ディアハイム武蔵野１階

３　出席者

⑴　事業所側

施設長、副施設長

⑵　市側

小金井市福祉保健部自立生活支援課相談支援係長、主任

４　事業について

⑴　動機付け支援
⑵　指定一般相談支援（地域移行支援及び地域定着支援）のサービス利用申請をするまでの相談支援に関すること
⑶　地域移行の啓発及び事業の啓発等
⑷　ピアサポーターの活用

５　事業の実施状況

・令和８年４月に武蔵野市の委託事業として今年度から動機付け支援を受託し、専任職員１名＋ピアスタッフ体制で開始している。
・現在は、事業開始間もないこともあり病院、関係機関への広報を重点に活動している。ただし、実際は事業開始前から地域移行支援及びその前段の動機づけ支援事業を行っていたため、継続して事業を行っている。
・当事者向けと医療機関向けのチラシを作成し、今月初旬から医療機関へ配布を開始した。
・その他他自治体の先行事例を参考に事業内容を整備した。
・区部３自治体へのヒアリングを通じて広報方法やピア活用のあり方を学び、病院向けの書類や運用の参考にしている。
・確実な事業実施のため、紙面で対象者の利用同意書を新規作成している。チェック欄や氏名のみ記入できるようにするなど、負担を減らすように配慮している。ただし、利用同意書の運用が始まっておらず、配布・検証は今後の予定

である。

6　長期入院者への地域移行支援の経過と対象者把握方法

・本事業に関係なく、事業所自体が以前から長期入院者の退院動機付けを目的に、数年かけて病院へのヒアリング等を実施してきた経緯がある。

・当初は障害福祉サービス「地域移行支援」給付前の動機付け期間として、約２年間経費持ち出しで支援を行い、その後は地域移行支援による退院支援へ切り替えて対応していた。

・地域移行支援は半年間であり、本人同意やアセスメント期間を考慮すると短い。そのため、事前支援が重要である。

・次第に市も地域移行支援支給前の動機付け支援の重要性を認識し事業実施となった。

・支援開始の流れとして、病状的には退院可能だが動機付けが必要な人に対し、病院、行政などから依頼を受けて支援に入る形を取っている。

・退院支援対象者の把握は約４～５年前の調査を基に、武蔵野市民の長期入院者がいる病院へ調査票を送付し、回答を得て把握し、その中から対象者が多い病院をピックアップして重点的に訪問、ヒアリングしている。

・初年度は入院者のいる全病院へ広報した。ただし実際の支援は近隣３～４病院から開始し、今年度は病院への説明用チラシを作成して発送し、動機付け支援の周知を進めている。

7　病院との連携

・近隣病院へ説明訪問を行い、相談室、ソーシャルワーカーとの連携体制を構築することが重要。広報を重視して関係づくりを進めている。

8　人員体制詳細

・ピアスタッフの雇用は週２日、月１０時間で限定的だが、きちんと雇用し同僚として活動することが重要だと考えている

・他に常勤職員１名、工数としては週３日程度として配置している。

・ピアスタッフは病院訪問同行や面談、外出・買い物・施設見学の支援などをペアで行い、関係性構築を通じて段階的な地域移行を支えている。また事業開始前から、既に病院の地域移行調整会議や病棟勉強会に参加し、事業紹介や地域移行時の役割説明を実施している。地域移行支援でも従来から活動しており、動機付け支援事業でも継続して関与する予定。

・ピアスタッフは現在２名在籍している。うち１名が長年（２０年位前から通常雇用で非常勤職員として勤務している当事者職員）事業所に勤務するピアス

タッフ。高齢化しているため、自治体独自のピアサポート育成活用事業を受託し、人材育成を進めている。
・たすきがけプロジェクトは他自治体の福祉事業所での見学・体験実習を通じて修了証を付与し、その修了者を各事業所が非常勤等で雇用する仕組みで、スタッフのうち１名が他自治体の居住者である。
・ピアスタッフの知見は、支援対象者に大きな影響を与える。これは当事者でない支援者が行いえないものであり、非常に大きな影響があると見ている。

9　自治体との連携
・動機づけする際は、初回面談に市のケースワーカーの同行を求め、対応してもらうよう調整している。
・事業実施の実績としては全体のケースワークの対応件数を報告している。個別ケースの詳細について自治体に報告している事業所もあるようだが、現状は求められない限り報告していない。